

狭い分野でも世界一を座右の銘に 1工程だけでも「不良ゼロ」を徹底

正田製作所

自動車用部品を手がける正田製作所(群馬県桐生市)は、トヨタ生産方式について学びながら、SPS(ショウダ・プロダクション・システム)方式として体系化し、「お散歩パートさんライン」と呼ぶラインの開発など、独自のモノづくり観を構築してきた。同社は目下、「工程内不良ゼロ活動」に取り組んでいる。正田勝啓社長が掲げる「狭い分野でも世界一」という理念の下、1工程だけでも一切不良を出さないようにし、徐々に対象を広げることが狙いだ。

——事業内容について教えてください。

正田 2011年3月期の売上は50億円弱の見込みで、足回り部品やステアリング部品などすべて自動車部品関連で占められています。加工は主に冷間鍛造と機械加工を手がけています。群馬県桐生市と太田市内に工場を構えており、中国・成都にも製造拠点を持っています。2003年に設立した中国拠点の売り上げは年間5億円強。従業員は65人強のまま生産性の改善



正田製作所のみなさん(左から3人目が正田社長)

に努めています。

国内の従業員数は200人弱です。そのうち生産設備や生産管理を担当する技術者を30人抱え、また機械保全技能士1級は12人、2級は19人、3級は73人が保有しています。設備に強い点を活かし、油圧プレス機などはほぼ自社製で、設備の内製化および古い設備を整備した転用率は65%に達しています。安易に機械を購入しようとする技術者には、「そのラインは自社の技術によってできたものではな

い」と言って釘をさしています(笑)。

——力を入れている工程内不良ゼロ活動について聞かせてください。

正田 当社には音を聞いたり、切り粉を見たりするだけで不良の兆候を判断できるという非常に優秀な匠がいました。かつてそれを標準化し、全社展開しようともくらんだのですが、結局うまくはいきませんでした。

匠の技能を標準化するのは難しいとわかり、仕切り直して2010

思いきって不良ゼロを目標に